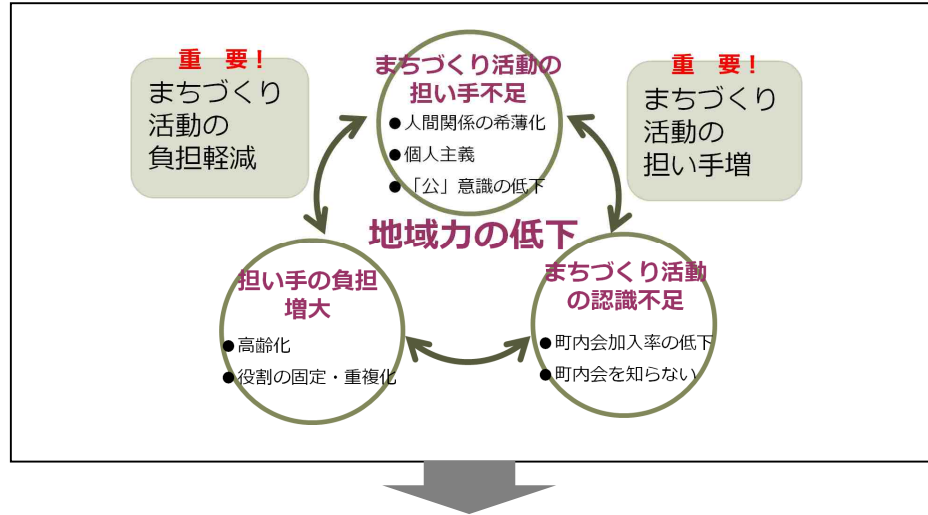


まちづくりニュース（第1号）

第1回「楽々まちづくり活動」ワークショップ 開催報告（速報版）

1. 目的

【現在の地域課題】



【本業務の目的】

苗穂東地区における

現在のまちづくり活動の負担の軽減方策を検討
まちづくり活動の担い手の拡大と育成方策を検討
まちづくりセンターによる ・ の支援方策アイデアを検討
[平成23年度] 検討した方策の実践と検証を実施

* 他地域でも参考に! *

*まちづくり活動とは:暮らしやすい地域づくりに係わる活動全般(例:お祭りの運営や高齢者・子どもの見守り、交通安全、健康づくり、景観保全・美化・・・等)本ワークショップでは主に苗穂東地区全体の活動について検討。

*ワークショップとは:いろいろな立場、考えの人が集まり、一緒に作業したり体を動かすことを通じて、お互いの意見を理解しあい、新たな発見や共有の方向性を見出す「体験型/参加型の会議・講座」のこと。

2. ワークショップの流れ

第1回:苗穂東地区「まちづくり活動」の棚卸し!!(9月9日[木]:今回)

目的:まちづくり活動の現況を把握

第2回:苗穂東地区「まちづくり活動」の課題出し(9月30日[木])

目的:まちづくり活動の運営・実施における課題を抽出

第3回:苗穂東地区「楽々まちづくり活動」を考えよう1(10月12日[火])

第4回:苗穂東地区「楽々まちづくり活動」を考えよう2(11月1日[月])

目的:運営課題の改善方策の検討・企画

平成23年度ワークショップ:実践・検証!「楽々まちづくり活動」(全3~4回程度)

目的:運営課題の改善方策の実践による新たな担い手の拡大と育成の実施と検証

3. 第1回ワークショップの開催概要

(1) テーマ

苗穂東地区「まちづくり活動」の棚卸し（現況把握）

(2) 開催概要：

日時：平成22年9月9日（木）18:30～20:30

会場：苗穂記念館2階

参加者：苗穂連町役員・福まち・民児協関係者20名＋湯浅会長・清水所長・事務局4名

(3) 目標：

- ・皆さんが現在係わっている、まちづくり活動の現況について整理・共有すること

ワークショップのようす

1. 開会挨拶

まちづくりセンター所長清水氏、苗穂連合町内会会長湯浅氏より開会挨拶



2. オリエンテーション

事務局（株）ノーザンクロスよりワークショップの目的・進め方を説明



3. グループワーク

意見交換のテーマ選び：

参加者の皆さんの希望をうかがい、以下2テーマ・3つのテーブルに別れてグループワークを開始

- ・Bグループ：まちのにぎわい・交流づくり
 - ・A・Cグループ：日常生活環境まちづくり
- グループワーク



1) 日頃係わっている「まちづくり活動」を書き出し、発表

2) 書き出された活動について、「何を・誰が（何人くらいで）・どこで・いつ頃」取り組んでいるのかを確認



4. 各グループの発表

- ・グループの担当者がまとめを発表
- ・参加者全員で確認

5. 6. まとめ・次回予定確認

7. 閉会あいさつ



(4) 各グループによる“ 棚卸し ” のようす (各グループの模造紙)

Aグループ (日常の生活環境まちづくり)



活動

- ・高齢者の見守り ・子どもたちの見守り ・交通整理 ・旗波作成 ・子ども写真展
- ・AMAサポーターズ倶楽部 ・花壇づくり・・・など

課題等

- ・高齢者見守りに関する守秘義務等により、情報共有・連携についての課題がある
- ・子どもに地域の文化を伝えることで親世代とのつながりから担い手増へ
- ・活動のエリアが広がり負担も広がる側面も・・・
- ・昔と同じことをやり続けるだけではなく、取組の見直し・整理も必要



Bグループ(まちなぎわい・交流づくり)



活動

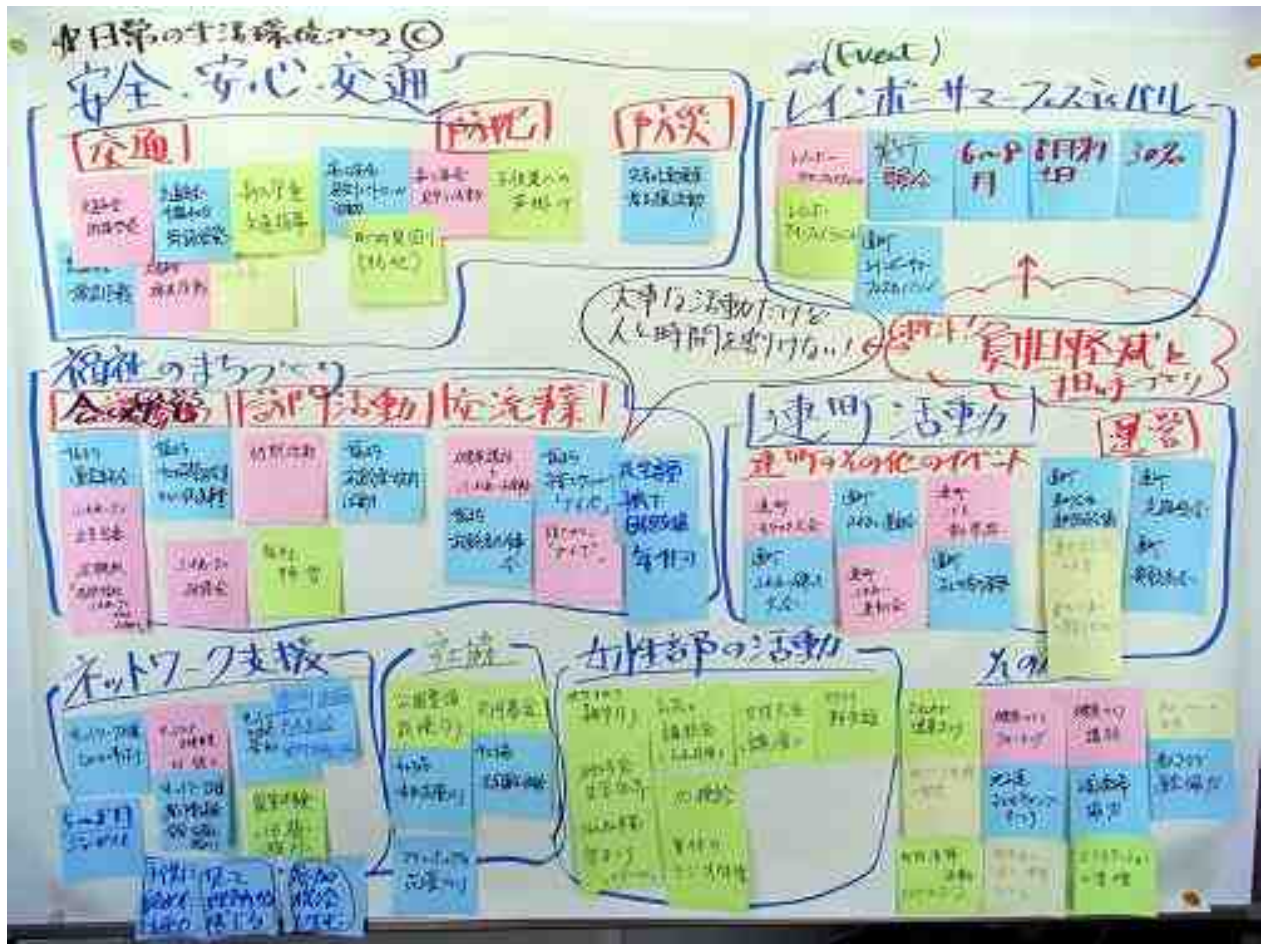
- ・レインボーサマーフェスティバル、ふれあいもちつき大会、ふれあい運動会、ネットワーク事業(冬の祭典、スノーキャンドルづくり、子どもクリスマス会)・・・など

課題等

- ・当日の運営には比較的人が集まるのだが、それまでの準備や企画の人手不足・アイデアづくりに苦労している。
- ・指導者的な存在が不足している。
- ・役割が固定化していて、同時進行のイベントもあり、各種団体の行事等への協力体制づくりが必要。
- ・イベントによっては、参加者を募るのも一苦労。



Cグループ（日常の生活環境まちづくり）



活動

- 交通安全・安心安全・防災・防犯見守り・レインボーサマーフェスティバル・福まち活動・福まち交流事業・連町”ふれあい”関連イベント・総会・ネットワーク支援・社協・女性部活動・・・など

課題等

- 福祉のまちづくり活動・子育てサロンなどは重要な活動だが人・時間が割けない。
- 負担が重複化している。負担の整理・担い手の増加が必要。
- 夏から秋にかけて、イベントが重複しているので、特に負担が大きい（運営担当は2～3ヶ月かかりきり）。
- イベント以外にも、社協等の活動資金（会費）の調達などの作業が負担になっている。

